

米づくり

1まい目 きそ | 知識・技能のたしかめ

1 2 3 4 めやす 10分

1 米づくりの1年の仕事について答えましょう。

(1) 田植えの前にする仕事は どれですか。

ア しろかき（田に水を入れ、土を平らにする） イ いねかり ウ もみすり

答え

(2) 秋にする仕事は どれですか。

ア 田植え イ なえを育てる ウ いねかり

答え

2 ①・②にあてはまることばを書きましょう。

寒さや病気に強い米、おいしい米を作るために、性質^{せいしつ}のちがう品種をかけ合わせて新しい品種を作ることを①といいます。また、小さく分かれていた田を、大きく形のそろった田につくり直すことを②といいます。

①

②

3 米づくりと自然の関わりについて答えましょう。

(1) 米づくりがさかんな地いきは、夏の①が高くなることと、雪どけ水などのゆたかな②にめぐまれています。

①

②

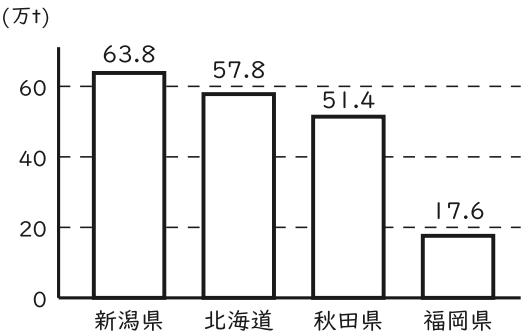
(2) 米の収^{しゅう}かく量がとくに多い県が集まっているのは、どこですか。

ア 九州地方 イ 東北地方や北海道 ウ 四国地方

答え

1 下のグラフを見て答えましょう。

米（水稻）の収かく量（令和7年産） 出典：農林水産省「作物統計調査」



(1) 収かく量が いちばん多い県は どこですか。

- ア 新潟県 イ 北海道 ウ 福岡県

答え

(2) 新潟県と福岡県の収かく量のちがいは、①万tです。

2 福岡県の米の品種について、表を見て答えましょう。

福岡県で生まれた米の品種（出典：福岡県農林業総合試験場）

品種名	とくちょう
夢つくし	たおれにくく、育てやすい。おいしい
元気つくし	夏の暑さに ととても強い
実りつくし	暑さに強く、収かく量が多い

(1) 夏の暑さに ととても強い品種は①です。

(2) 「暑さに強い」と「収かく量が多い」の、両方に当てはまる品種はどれですか。

- ア 夢つくし イ 元気つくし ウ 実りつくし

答え

3まい目

かんがえる

筋道を立てて考える

1

2

3

4

めやす 15分

1 ゆいさんは、「なぜ雪の多い地方で米づくりがさかんなのだろう」と考え、メモを作りました。

ゆいさんのメモ

調べて分かったこと
雪どけ水は、春から夏に田へたくさん流れこむ
雪どけ水には、山の養分がとけこんでいる

メモから考えて、雪が米づくりに役立つわけは何ですか。

- ア 田に使う水がゆたかになるから イ 冬の間も、田で米を育てられるから
- ウ 雪がつもると、田が広くなるから

答え

2 つぎに、福岡県で生まれた品種の表を見つけ、調べたことを話しています。

福岡県で生まれた品種（出典：福岡県農林業総合試験場）

品種名	とくちょう
元気つくし	夏の暑さに とても強い
実りつくし	暑さに強く、 ^{しゅう} 収かく量が多い

ゆい

近年は、夏の気温がとても高い年がつづいているんだって。

そら

暑さで米のつぶが白くにごって、^{ひんしつ}品質が下がることもあるらしいよ。

(1) 表と2人の話から考えて、福岡県で「元気つくし」のような品種が作られたわけは何ですか。

- ア 暑さに強い米がひつようだったから イ 寒さに強い米がひつようだったから
- ウ ^{しゅう}収かく量をへらしたかったから

答え

(2) まとめ：夏の①で米の品質が下がるこまりごとがあった。だから、②で暑さに強い品種を作った。

①

②

1 そらさんが、下の資料を見て言いました。

米の^{しゅう}収かく量が多い道県と福岡県（令和7年産） 出典：農林水産省「作物統計調査」

道県	^{しゅう} 収かく量
新潟県	63.8万t
北海道	57.8万t
福岡県	17.6万t

そら 福岡県は^{しゅう}収かく量が全国で1位だから、米づくりがさかんなんだね。

- (1) そらさんの言ったことのうち、資料と合っていないのは どの部分ですか。
- ア 「全国で1位」の部分 イ 「米づくりがさかん」の部分
- ウ 合っていない部分はない

答え

- (2) 資料の数字を使って、正しく言えることに直して書きましょう。

つかうことは **新潟県** **福岡県**

2 福岡県の米づくりのくふうについて、資料をもとにせつめいします。

資料 分かっていること（2・3まい目のまとめ）

分かっていること
夏の暑さで、米の ^{ひんしつ} 品質が下がることがある
品種改良で「元気つくし」など暑さに強い品種が生まれた

福岡県のくふうを、資料のことはを使って「～ので、～。」の形でせつめいしましょう。

つかうことは **暑さ** **品種改良**

米づくり

1 まい目 きそ | 知識・技能のたしかめ 答え

1 2 3 4 めやす 10分

1 米づくりの1年の仕事について答えましょう。

(1) 田植えの前にする仕事は どれですか。

☒ ア しろかき（田に水を入れ、土を平らにする） イ いねかり ウ もみすり

答え **ア**

(2) 秋にする仕事は どれですか。

ア 田植え イ なえを育てる ☒ ウ いねかり

答え **ウ**

2 ①・②にあてはまることばを書きましょう。

寒さや病気に強い米、おいしい米を作るために、性質^{せいしつ}のちがう品種をかけ合わせて新しい品種を作ることを①といいます。また、小さく分かれていた田を、大きく形のそろった田につくり直すことを②といいます。

① 品種改良

② 耕地整理

3 米づくりと自然の関わりについて答えましょう。

(1) 米づくりがさかんな地いきは、夏の①が高くなることと、雪どけ水などのゆたかな②にめぐまれています。

① 気温

② 水

(2) 米の収^{しゅう}かく量がとくに多い県が集まっているのは、どこですか。

ア 九州地方 ☒ イ 東北地方や北海道 ウ 四国地方

答え **イ**

考え方

大問1 春：しろかき→田植え、夏：水の管理、秋：いねかり、のじゅんに進みます。

大問2 品種改良は「よい品種どうしをかけ合わせて、もっとよい品種を作る」くふう、耕地整理は「田の形を整えて、機械を使いやすくする」くふうです。

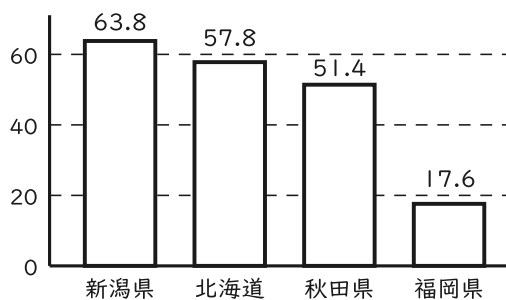
大問3 雪の多い地方は、春から夏に雪どけ水がゆたかに使えるので、米づくりがさかんです。



1 下のグラフを見て答えましょう。

米(水稻)の収かく量(令和7年産) 出典:
農林水産省「作物統計調査」

(万t)



(1) 収かく量が いちばん多い県は どこですか。

ア 新潟県 イ 北海道 ウ 福岡県

答え

ア

(2) 新潟県と福岡県の収かく量のちがいは、①万tです。

① 46.2

2 福岡県の米の品種について、表を見て答えましょう。

福岡県で生まれた米の品種(出典:福岡県農林業総合試験場)

品種名	とくちょう
夢つくし	たおれにくく、育てやすい。おいしい
元気つくし	夏の暑さに とても強い
実りつくし	暑さに強く、収かく量が多い

(1) 夏の暑さに とても強い品種は①です。

① 元気つくし

(2) 「暑さに強い」と「収かく量が多い」の、両方に当てはまる品種はどれですか。

ア 夢つくし イ 元気つくし ウ 実りつくし

答え

ウ



3まい目 かんがえる | 筋道を立てて考える

答え

1 2 3 4 めやす 15分

1 ゆいさんは、「なぜ雪の多い地方で米づくりがさかんなのだろう」と考え、メモを作りました。

ゆいさんのメモ

調べて分かったこと
雪どけ水は、春から夏に田へたくさん流れこむ
雪どけ水には、山の養分がとけこんでいる

メモから考えて、雪が米づくりに役立つわけは何ですか。

- (ア) 田に使う水がゆたかになるから イ 冬の間も、田で米を育てられるから
ウ 雪がつもると、田が広くなるから

答え ア

2 つぎに、福岡県で生まれた品種の表を見つけ、調べたことを話しています。

福岡県で生まれた品種（出典：福岡県農林業総合試験場）

品種名	とくちょう
元気つくし	夏の暑さに とても強い
実りつくし	暑さに強く、 ^{しゅう} 収かく量が多い

ゆい 近年は、夏の気温がとても高い年がつづいているんだって。

そら 暑さで米のつぶが白くにごって、^{ひんしつ}品質が下がることもあるらしいよ。

(1) 表と2人の話から考えて、福岡県で「元気つくし」のような品種が作られたわけは何ですか。

- (ア) 暑さに強い米が ひつようだったから イ 寒さに強い米が ひつようだったから
ウ ^{しゅう}収かく量を へらしたかったから

答え ア

(2) まとめ：夏の①で米の品質が下がるこまりごとがあった。だから、②で暑さに強い品種を作った。

① 暑さ

② 品種改良



I そらさんが、下の資料を見て言いました。

米の収かく量が多い道県と福岡県（令和7年産） 出典：農林水産省「作物統計調査」

道県	収かく量
新潟県	63.8万t
北海道	57.8万t
福岡県	17.6万t

そら 福岡県は収かく量が全国で1位だから、米づくりがさかんなんだね。

(1) そらさんの言ったことのうち、資料と合っていないのはどの部分ですか。

- ☒ ア 「全国で1位」の部分 ☐ イ 「米づくりがさかん」の部分
☐ ウ 合っていない部分はない

答え

ア

(2) 資料の数字を使って、正しく言えることに直して書きましょう。

つかうことば

新潟県

福岡県

(れい) 収かく量がいちばん多いのは新潟県で、福岡県はおよそ17.6万tである。

2 福岡県の米づくりのくふうについて、資料をもとにせつめいします。

資料 分かっていること（2・3まい目のまとめ）

分かっていること
夏の暑さで、米の品質が下がることもある
品種改良で「元気つくし」など暑さに強い品種が生まれた

福岡県のくふうを、資料のことはを使って「～ので、～。」の形でせつめいしましょう。

つかうことば

暑さ

品種改良

(れい) 夏の暑さで米の品質が下がることもあるので、品種改良で暑さに強い品種を作るくふうをしている。